

日本教育メディア学会
学 会 通 信 第 43 号

学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jaems/>
2007年9月20日発行

事務局
〒184-8501
京都小金井市貫井北町4-1-1
東京学芸大学教育学研究室内
電話:042-329-7344
E-mail:shijaems@u-gakugei.ac.jp

2007年度定例総会開催通知（会告）

下記により、2007年度 日本教育メディア学会定例総会を開催致します。会員各位のご参加をお願い致します。なお、ご参加のない場合には、同封の委任状はがきにお名前・議案の賛否・ご捺印の上、50円切手を貼って、10月12日（金）必着で、学会事務局あて折り返しご投函ください。

記

正会員各位

2007年9月19日
日本教育メディア学会
会長 生田 孝至

1. 日 時 : 2007年10月21日（日） 11:10～11:50 （第2日目）
2. 会 場 : 「カレッジプラザ」講堂
3. 第1号議案（2006年度事業報告及び収支決算承認の件）
 - ①機関誌発行
 - ②年次大会の開催
 - ③学术交流等一研究会等の開催
 - ④2006年度収支決算（案）、監査報告（第2ページ参照）
4. 第2号議案（2007年度事業計画及び収支予算承認の件）
 - ①機関誌発行
 - ②年次大会の開催
 - ③学术交流等一研究会等の開催
 - ④2007年度収支予算書（案）（第3ページ参照）
5. 表彰「坂元彦太郎記念教育メディア研究奨励賞」審議経過と結果報告
6. 2008年度年次大会
7. その他

第 14 回日本教育メディア学会年次大会 のご案内

10 月 20・21 日の両日に、本学会の年次大会を秋田県秋田市で開催いたします。過日、研究発表の募集をいたしましたところ、予想を上回るたくさんのお申込をいただき、実行委員会としては「うれしい悲鳴」をあげております。感謝申し上げますとともに、当日は大会を一層盛り上げていただきますようお願い申し上げます。また、10 月中旬以降は、秋田県内は紅葉の見頃の時期でもあります。学会で研究を深めた後は、美しい紅葉と温泉で英気を養うというのはいかがでしょう。ぜひプランにお加えください。

(大会実行委員会)

▼開催期日・会場等

期日： 平成 19 年 10 月 20 日（土）、21 日（日）

会場： 秋田県秋田市

- ①授業公開： 秋田大学教育文化学部附属小学校（秋田市保戸野原の町 13-1）
- ②研究発表： カレッジプラザ（秋田市中通 2 丁目 1-51 明德館ビル）
- ③懇親会： パーティージャラリー「イヤタカ」（秋田市中通 6 丁目 1-13）

▼大会日程

	時間	プログラム	会場
前日（10/19）	16:00～18:00	学会編集委員会	秋田大学手形キャンパス 一般教育 1 号館会議室
	18:00～20:00	学会理事会	
第 1 日（10/20）	9:00～	授業参観の受付	①秋田大学教育文化学部 附属小学校
	9:40～11:50	授業公開及び協議	
		移動・昼食	
	12:30～	受付	②カレッジプラザ
	13:30～15:10	シンポジウム I	
	15:30～17:30	自由研究 1・2・3	
	18:00～20:00	懇親会	
第 2 日（10/21）	8:30～	受付	②カレッジプラザ
	9:00～11:00	課題研究 I、II、III	
	11:10～11:50	総会	
	11:50～13:00	昼食	②カレッジプラザ
	13:00～14:40	自由研究 4・5・6	
	14:50～16:30	シンポジウム II	

▼大会参加者へのご案内

1. 受付

受付場所……カレッジプラザ・交流スペース（2階）

受付時間……10月20日（土）は12:30～、21日（日）は8:30～

大会参加費等

一般会員（発表論文集代を含む）	6,000円
学生会員（発表論文集代を含む）	4,000円
一般参加者（非会員、発表論文集代を含む）	4,000円
懇親会費	4,000円
発表論文集追加	2,500円（別途送料500円）

名札……受付で名札をお渡しします。所属及び氏名をご記入の上、大会期間中の会場内では必ず名札をお付け下さい。

※事前の参加申込は、8月31日（金）をもって締め切りました。参加費の払込がまだの方は、当日、受付にてお支払い下さい。

2. 参加者控室

参加者の控室は特に設けません。なお、湯茶等は受付付近にて用意いたします。

3. 総会

10月21日（日）11:10～11:50に、カレッジプラザ・講堂で総会を行います。

4. 懇親会

10月20日（土）18:00～20:00に、パーティーギャラリー「イヤタカ」（カレッジプラザより徒歩5分）で懇親会を開催いたします。皆様お誘い合わせの上ご参加下さい。会費は4,000円です。

5. 昼食・宿泊

大会会場は市内中心部ですので、会場周辺にて各自で昼食をお取りください。カレッジプラザ内には食事を取る施設はありません。また、今回は弁当の予約注文も行いませんので、予めご了承ください。

宿泊の手配は各自でお願いします。大会会場が市内中心部ですので、JR秋田駅から徒歩圏内にあるホテルをおすすめします。

6. 気候

この時期の秋田市の気候は、最高気温17度、最低気温8度（平年値）です。ただ、10月は日によって最低気温が5度前後まで下がることもあります。

▼研究発表者（課題研究・自由研究）へのご案内

1. 発表までの準備

- ・発表者（登壇者）は本学会の会員であることが必要条件です。2007年度の年会費の納入がお済みかどうか、今一度ご確認ください。
- ・会員1名が発表できる件数は、課題研究1件、自由研究1件、計2件までです。
- ・発表申込は、8月10日（金）をもって締め切りました。
- ・原稿送付は、8月31日（金）をもって締め切りました。

2. 発表当日

- ・各会場には、セッションの進行を行う「座長」（課題研究は「コーディネータ」）と「係員」を置きます。
- ・自由研究の発表時間は1件あたり20分（発表15分、質疑応答4分、交代1分）とします（申込件数が予想を上回り、当初の予定より短縮されています。ご了承ください）。

12分経過＝1鈴（発表終了3分前）
15分経過＝2鈴（発表終了）
19分経過＝3鈴（質疑終了、交代）

係員が、12分で1鈴、15分で2鈴、19分で3鈴の合図をします。発表時間の厳守をお願いいたします。
- ・配布資料がある場合、セッション開始前に係員にお渡しください。係員が資料を配布いたします。各自で必要な部数をご用意下さい。
- ・各会場には、MS PowerPointが提示可能なWindowsパソコンとプロジェクタを用意します。利用可能な媒体は、USBメモリ、CD、フロッピーディスクです。これ以外の機材、ソフト等を使用する場合は、各自でご準備ください。

座長・コーディネータへのお願い

- ・自由研究はセッション毎にお二人の座長をお願いしております。事前にご相談の上、ご進行をお願いいたします。
- ・複数のセッションが同時並行で進みますので、予定時間での進行にご協力をお願いいたします。
- ・急な発表取り消し、欠席者が出た場合にも、発表時刻の繰上げは行わず、空いた時間は座長の裁量で質疑・討論等に当ててください。
- ・課題研究の発表時間等はコーディネータにお任せします。

▼会場までのアクセス

1. 秋田市内まで

J R 秋田新幹線で東京から秋田まで4時間弱。

飛行機 羽田空港から秋田空港まで約1時間。秋田空港からJ R秋田駅西口までリムジンバスで約40分。リムジンバスは、秋田空港を発着する航空便のダイヤに合わせて運行されています。ダイヤの変更等も考えられますので、直前に、運行会社（秋田中央交通）のホームページによりご確認ください。

(http://www.akita-chuokotsu.co.jp/rimzin_top.html)

参考までに、平成19年9月現在のダイヤを掲載します。

秋田空港から秋田駅西口へ（午前のみ抜粋）

出発地・時刻	便	到着時刻	バス空港発	バス秋田駅着
東京 8:00	日本航空 1261	9:05	9:20	10:00
大阪 8:35	日本航空 2171	9:55	10:10	10:50
東京 9:15	全日空 873	10:20	10:35	11:15
小牧 10:05	日本航空 4313	11:15	11:30	12:10
札幌 10:55	日本航空 2823	11:50	12:05	12:45
大阪 10:50	アイベックス 3081	12:05	12:20	13:00

秋田駅西口から秋田空港へ（午後のみ抜粋）

バス秋田駅発	バス空港着	出発時刻	便	到着地・時刻
14:35	15:15	16:00	全日空 400	中部 17:15
		16:20	日本航空 2826	札幌 17:15
15:50	16:30	17:25	日本航空 1266	東京 18:30
16:25	17:05	18:00	全日空 878	東京 19:05
16:55	17:35	18:25	日本航空 2178	大阪 19:50
18:25	19:05	19:50	日本航空 1268	東京 20:55
		20:00	日本航空 4318	小牧 21:10

おすすめウォーキング・スポット

- ①ねぶり流し館（秋田市民俗芸能伝承館）……竿燈をはじめとする民俗芸能
- ②赤れんが郷土館……明治時代の洋風建築
- ③アトリオン……地下1階に県産品プラザがある
- ④秋田市民市場……秋田の県産品が並ぶ（5:00～18:00、日曜日は休み）
- ⑤千秋公園（久保田城址）……市街地に広がる静かな公園

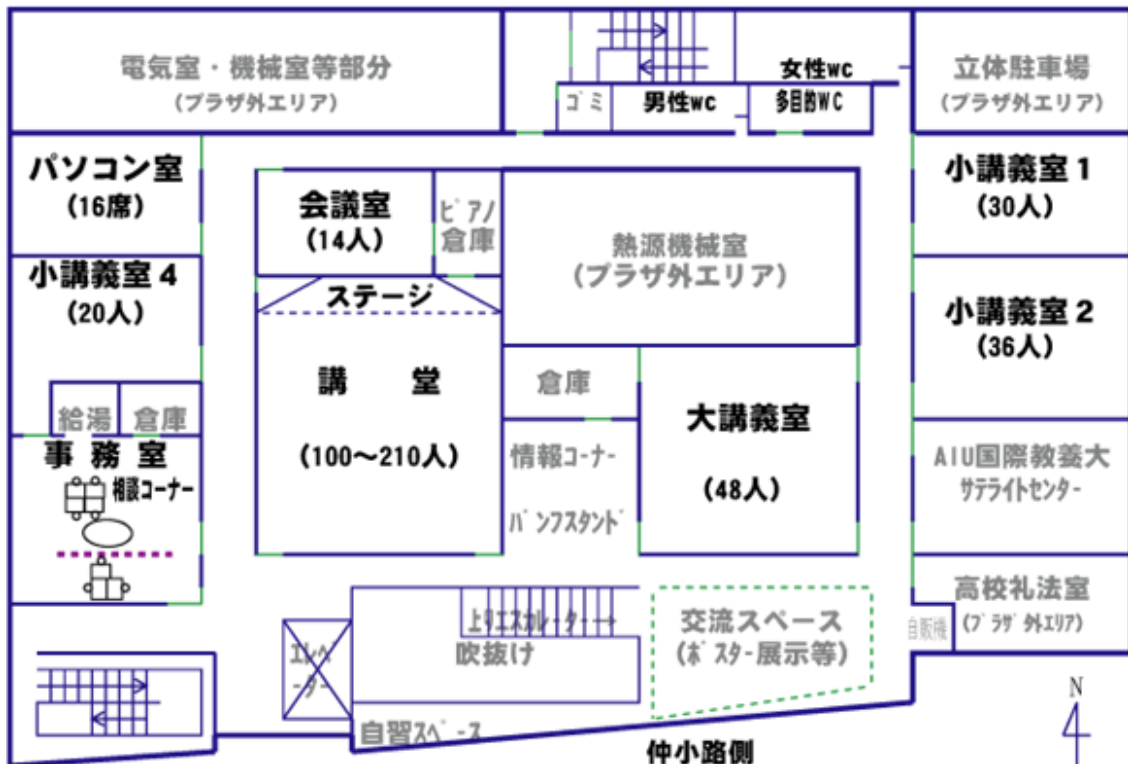
2. 各会場まで

- ①授業公開： 秋田大学教育文化学部附属小学校（秋田市保戸野原の町13-1）
JR秋田駅西口より北西へ約2.1キロ。路線バスで約10分（1時間に3本程度）。
秋田駅西口バス乗り場3番線より、神田旭野線または添川線を利用。
「保戸野八丁」バス停下車。
- ②研究発表： カレッジプラザ（秋田市中通2丁目1-51 明德館ビル）
JR秋田駅西口より西へ約500メートル。附属小学校からは約1.7キロ。
- ③懇親会： パーティーギャラリー「イヤタカ」（秋田市中通6丁目1-13）
カレッジプラザから南へ約400メートル。

【地図】



▼会場配置図（カレッジプラザ：明德館ビル2階）



講堂	シンポジウムⅠ・Ⅱ、課題研究Ⅰ、自由研究Ⅰ
大講義室	課題研究Ⅱ、自由研究Ⅱ・Ⅳ
小講義室Ⅱ	課題研究Ⅲ、自由研究Ⅲ・Ⅴ
小講義室Ⅰ	自由研究Ⅵ
会議室	大会本部
交流スペース	受付

▼大会事務局

第14回日本教育メディア学会年次大会 実行委員会（秋田大学）

浦野 弘（委員長）、姫野完治（事務局長）、細川和仁、藤垣雅明

事務局 〒010-8502 秋田市手形学園町1-1

秋田大学教育文化学部附属教育実践総合センター

電話：018-889-2698（浦野）／2697（姫野）／3188（細川）／2700（センター事務局）

電子メール：jaems2007@cerp.akita-u.ac.jp（大会まで使用）

：urano@ipc.akita-u.ac.jp

大会ウェブページ：<http://www.cerp.akita-u.ac.jp/~jaems2007/index.html>

大会期間中のお問い合わせは、カレッジプラザ・会議室に設置する「大会本部」までお願いいたします。大会本部には携帯電話を準備する予定ですが、番号が決まりましたら大会ウェブページにてお知らせします。

大会プログラム・第1日・10月20日(土)

授業公開とシンポジウム I 「授業とメディア」

コーディネータ：浦野 弘・生田孝至

授業公開(秋田大学教育文化学部附属小学校)

9:00~9:30 受付 参加者控え室：はとの子ホール

9:40~10:25 メディアを活用した提案授業

事例① 「主体的な学習を広く深く展開するためのメディアの活用」

電子黒板「アクティブボード」を活用した授業

6年社会科「世界に歩み出した日本」

授業者：加賀谷英樹(附属小)

授業場所：6A教室

事例② 「ニュース比で、メディアリテラシーを育てる」

メディアリテラシー、特に情報の読解力、思考力に焦点をあてた授業

4年国語科「よく見て考えてニュースを読もう」

授業者：湊 弘一(附属小)

授業場所：4B教室

10:50~11:50 分科会(授業検討会)

事例① 社会科 場所 メディアセンター

司会：津島穰(秋田大学附属小)、記録：相澤朋彦(秋田大学附属小)

授業者：加賀谷英樹(附属小)、助言者：井門正美・外池智(秋田大学)

事例② 国語科 場所 会議室

司会：京野真樹(秋田大学附属小)、記録：熊谷 尚(秋田大学附属小)

授業者：湊 弘一(附属小)、助言者：阿部 昇(秋田大学)

※附属小学校におけるビデオやカメラ等による撮影はお断りしておりますのでご了承ください。

▼13:30~15:00 シンポジウム I 「授業とメディア」(カレッジプラザ・講堂)

秋田大学教育文化学部附属小学校における授業提示や、大会会場と同一ビル内にある秋田県立明德館高等学校における授業の形態など、授業におけるメディアの新たな実践がはじまっている。その事例を手がかりに、さらに、授業研究とメディアの関わりについて検討する。

S1-1 思考力を高めるための、主体的な学びを支えるメディアの活用

湊 弘一(秋田大学教育文化学部附属小学校)

S1-2 秋田県立秋田明德館高校通信制における e-learning の試み

船木喜夫(秋田県立秋田明德館高等学校)

S1-3 授業とメディア：2つの実践に触れて考えてみたいこと

鈴木克明(熊本大学)

15:30~17:30

自由研究 1 (講堂)

座長：中橋 雄、苅宿俊文

- J1-1 メディア創造力を育成するメディア表現学習におけるカリキュラムの考察
○前田康裕（熊本市立飽田東小学校）・中川一史（メディア教育開発センター）・
中橋 雄（福山大学）・佐藤幸江（横浜市立大口台小学校）・
北川久一郎（D-project 事務局）
- J1-2 昭和初期におけるメディア・リテラシー教育
朝倉 徹（東海大学）
- J1-3 社会関係資本から見たアメリカ公共放送の日本展開
澤田敬人（静岡県立大学）
- J1-4 質的データ分析におけるソフトウェアの利用
—MAX QDA 2007 を活用した分析事例—
○久保田賢一（関西大学）・山本良太・岩崎千晶・鍛冶大佑（関西大学大学院）
- J1-5 入れ子型ワークショップによるワークショップスタッフの成長
—ワークショップオンワークショップ実践を通して—
苅宿俊文（大東文化大学）

15:30~17:30

自由研究 2 (大講義室)

座長：西森章子、三宅正太郎

- J2-1 メディアにおける演出についての考察
—「ニュースステーション最終回」を教育素材として取り上げて—
影山隆彦（同志社女子大学）
- J2-2 方言を使った表現が番組理解に与える影響について(1)
—大分弁を使ったテレビ番組の場合—
○三宅正太郎（福山大学）・大久保久美（大分県立芸術文化短期大学）
- J2-3 アジアにおける教育放送—ウェブ時代の番組制作—
大西 誠（愛知淑徳大学）
- J2-4 教授メディアの利用とメディア接触の関連
和田正人（東京学芸大学）
- J2-5 授業研究・授業設計のための授業記録における授業過程の構造化・視覚化の検討
三橋功一（北海道教育大学）
- J2-6 動的システム理解における情報提示様式の効果に関する研究
○西森章子（大阪府立大学）・山本はるか（筑波大学大学院）

15:30～17:30

自由研究3（小講義室2）

座長：芝崎順司、佐賀啓男

J3-1 コンピュータの文字入力に対する大学生の意識

佐賀啓男（江戸川大学）

J3-2 市民向けプレゼンテーション講座の実施と評価

○宮川祐一・スプリチャル, モリス・ルイス（仁愛大学）

J3-3 市民向けバイリンガルプレゼンテーション講座

○スプリチャル, モリス・ルイス・宮川祐一（仁愛大学）

J3-4 短期大学におけるコンピュータリテラシー教育の可能性

○菊地紀子（帝京短期大学）・宮寺庸造・横山節雄（東京学芸大学）

J3-5 授業を通じた学生のマルチメディア観の改善

小田茂一（愛知淑徳大学）

J3-6 REAS を利用した高等教育の授業等の改善について

○芝崎順司・近藤智嗣（メディア教育開発センター）

18:00～

懇親会（パーティーギャラリー・イヤタカ）

大会プログラム・第2日・10月21日（日）

9:00~11:00

課題研究Ⅰ（講堂）子どもの発達とメディアの功罪

コーディネータ：佐々木輝美

いつでも、どこでも、誰でも、メディアを通して様々な情報の送受信が可能となった現代社会において、子どもたちは何を、何を失っているのか。インターネット、携帯電話、ゲームなどの新しいメディアを中心に据えながらも、ラジオ、映画、テレビなどの伝統的なメディアも含め、子どもの発達とメディアの功罪について論じた上で、望まれるメディア社会の仕組み、学校や家庭でのメディア教育などについても発展的に考察したい。

K1-1 インターネット使用と子どもの社会的適応

高比良美詠子（メディア教育開発センター）

K1-2 インターネット利用と自己愛人格

和田正人（東京学芸大学）

K1-3 テレビゲームのレーティング・システムと子ども

○坂本美和（国際基督教大学大学院）・佐々木輝美（国際基督教大学）

K1-4 子どものポップカルチャー理解のための方法論に関する研究

小柳和喜雄（奈良教育大学）

K1-5 3つのメディア次元とメディア・リテラシー教育の関連

浅井和行（京都教育大学）

9:00~11:00

課題研究Ⅱ（大講義室）学力向上とメディア

コーディネータ：中川一史

今や、メディアは学校教育および授業に広く関わってきている。それは、教科教育や総合的な学習の時間などにおいて、メディア表現活動やメディアリテラシー、情報モラルの学習など、多義にわたっている。また、教員のメディア活用の資質・能力の向上を図り、児童・生徒の学力向上にむすびつける動きも活性化してきている。授業において、メディアの活用場面をどのようにデザインするのか、それが学力向上にどのように寄与しているのか、メディアそのものをカリキュラムにどのように位置づけるのかなど、その方法論や授業実践とのむすびつきを考察したい。

K2-1 小学校におけるメディア活用の授業デザインと期待できる学力

○村井万寿夫（金沢星稜大学）・中川一史（メディア教育開発センター）

K2-2 メディア等を利用したPISA型読解力を視点にした学習展開事例の研究

○清水和久（石川県教育センター）・村井万寿夫（金沢星稜大学）

- K2-3 学校教育における電子黒板活用の類型化と既存のアナログ教材との「選択」「組み合わせ」に関する意識調査
 ○小林祐紀（外日角小学校）・中橋 雄（福山大学）・寺嶋浩介（長崎大学）・
 中川一史（メディア教育開発センター）・
 太田 泉（パイオニアソリューションズ）
- K2-4 小中学校での活用を想定した静止画像データベースソフトの開発と評価
 ○寺嶋浩介（長崎大学）・中川一史（メディア教育開発センター）・
 廣瀬嘉之・藤野泰典（エプソン販売）
- K2-5 サイエンス・コミュニケーションに果たすメディアの役割
 ○田邊則彦（慶應義塾湘南藤沢中・高等部、関西大学大学院）・
 三木功次・中井祐輔（（独）科学技術振興機構）

9:00～11:00

課題研究Ⅲ（小講義室2）交流学习と教育メディア

コーディネータ：久保田賢一

情報通信技術（ICT）の発展に伴い、学校の ICT 環境が充実してきた。これまでの教室という枠の中での学習から、教室の枠を飛び出し外の世界とつながる学習ができるようになった。川の上流と下流の学校を結んだり、お米をテーマにした調べ学習など複数の学校が協力し合い学習を進めたりする活動が盛んになった。また、海外の学校との交流もテレビ会議やウェブを活用して活発化している。しかし、まだ ICT を活用した交流学习は始まったばかりであり、そのノウハウは十分に蓄積されているとはいえない。教育メディアを活用した交流学习の学習方法やカリキュラムはどうあるべきか、理論と実践の両面から考えたい。

- K3-1 ICTを活用した公民館と水族館の連携による児童向け学習プログラムの開発
 ○石塚丈晴（静岡大学）・高田浩二・森 徹・三宅基裕・岩田知彦（海の中道
 海洋生態科学館）・今林 勲（奈多校区子ども会育成連合会）・浜崎隆好・
 石井秀子（福岡市奈多公民館）・西村靖司（福岡工業大学短期大学部）・
 森谷和浩・前田喜和（チエル）・堀田龍也（メディア教育開発センター）
- K3-2 協同制作による国際交流学习のための単元モデルの開発
 ○稲垣 忠（東北学院大学）・清水和久（石川県教育センター）・
 塩飽隆子（ジャパンアートマイル）
- K3-3 国際交流学习の普及を目的とした教員研修ワークショップのグランドデザイン
 ○藤谷 哲（目白大学）・稲垣 忠（東北学院大学）
- K3-4 アジアにおける異文化理解とメディア教育
 白 盛琇（神田外語大学）
- K3-5 国際交流に必要なメディアとカー構成主義的な学習環境デザイン
 ○影戸 誠・佐藤慎一（日本福祉大学）

11:10~11:50

総会（講堂）

学会事務局

13:00~14:40

自由研究4（大講義室）

座長：亀井美穂子・鈴木克明

J4-1 デジタル教材活用支援サイトにおける品質保証

—シンガポール・マレーシア・韓国の事例—

○亀井美穂子（椙山女学園大学）・稲垣 忠（東北学院大学）

J4-2 地域学習のためのデジタル教材の活用事例

○金子俊明（筑波大学附属聴覚特別支援学校）・
武井順一（千葉県郷土史研究連絡協議会）

J4-3 デジタル教材の多目的展開

菊江賢治（NHK）

J4-4 通信制高校生向けポータルサイト「なるほどネット」

○鈴木克明（熊本大学）・千葉祐介（富士通ラーニングメディア）・
弓場重貴（NHK学園高等学校）・友野次郎（都立砂川高等学校）

J4-5 メディア・リテラシー教育用リソースガイドの形成的評価

○盛岡 浩（関西大学大学院）・中橋 雄（福山大学）・
前田康裕（熊本市立飽田東小学校）・久保田賢一（関西大学）

13:00~14:40

自由研究5（小講義室2）

座長：近藤智嗣・岡部昌樹

J5-1 科学博物館ローンキットの開発課題

—光を題材とした幼少向けキットの試行によって—

○小笠原喜康（日本大学）・小野 和（東京成徳大学）・
渡邊 昇（杉並区立科学館）・大即洋子（清和大学）・
木下周一（（有）コミュニケーションデザイン）・

木村陽一郎（湘南学園小学校）・横山千晶（高崎市立西部小学校）

J5-2 初等教育におけるメディアリテラシーの育成

—学校放送番組を活用したトレーニングパッケージの開発

岡部昌樹（金沢星稜大学）

J5-3 モバイル教育・学習の大学での開発・実践動向

○石田 隆・岩崎 信（東北大学大学院）

J5-4 大学間連携による新しい学びの形態に関する研究

—関西大学総合情報学部と日本福祉大学福祉経営学部の実践から—

○山本良太（関西大学大学院）・影戸 誠（日本福祉大学）・
久保田賢一（関西大学）

J5-5 ミクストリアリティ・オーサリングツールの開発と評価

○近藤智嗣（メディア教育開発センター）・杉本裕二（同志社大学）・
水木 玲（トランスファーオービット）

13:00~14:40

自由研究 6（小講義室 1）

座長：後藤康志・塚野弘明

J6-1 教員養成大学における授業「情報処理」の目標と演習課題に関する基礎的研究(3)

篠原文陽児（東京学芸大学）

J6-2 映像を活用した「教育方法・技術」授業の開発

—NHK「わくわく授業～私の教え方」を素材として—

○後藤康志（新潟医療福祉大学）・生田孝至（新潟大学）・
桑山裕明（NHK エデュケーショナル）

J6-3 文系大学におけるロボットプログラムを使った情報科教員養成の実践

栗田るみ子（城西大学）

J6-4 Feedback としての Cyber 倫理の発達—情報倫理教育とセキュリティ・モデル

市川 昌（江戸川大学）

J6-5 教員養成におけるカリキュラム開発についての研究

—教育実習生の授業を題材としたカンファレンスの試行—

塚野弘明（岩手大学）

（「シンポジウムⅡ」につづく……）

14:50～16:30

シンポジウムⅡ（公開）「メディアの教育利用—過去・現在・未来—」（講堂）

コーディネータ：中野照海

20 世紀の初頭に映画が出現し、これが教育に使われるようになってから、メディアの教育利用が盛んとなってきます。後に、ラジオが現われ、テレビが現われ、メディアの教育利用がいつそう盛んになります。さらに、20 世紀の後半にコンピュータが普及し、メディアの形態も通信手段も大きく変わってきました。メディアの定義や捉え方も含めて、21 世紀の現在、過去のメディアの教育利用、現在の利用、さらに近未来の利用の経緯をたどる時、多様な姿が見られる。このシンポジウムでは、メディアの教育利用の変貌に向き合うか、その特徴、可能性と限界などから見ていきたい。

S2-1 放送の教育利用の過去・現在・未来—学校教育の場合を中心に—

小平さち子（NHK 放送文化研究所）

S2-2 コンピュータ及び関連メディアの教育利用—過去・現在・未来—

篠原文陽児（東京学芸大学）

S2-3 教育におけるこれまでの映像研究

佐賀啓男（江戸川大学）

（16:30 閉会）



◆ 編集委員会からのお知らせ ◆

機関誌『教育メディア研究』特集「高等教育の改革とメディア」への投稿原稿募集
前号「学会通信第42号」でもお知らせいたしました。『教育メディア研究』第14巻2号に掲載予定の特集論文のテーマは「高等教育の改革とメディア」です。

高等教育の改革が進む中、さまざまな場面でメディアの活用が注目されています。今回の特集では、授業の効率化、教員養成、国際化、FDの問題など、さまざまな角度から高等教育改革とメディアの問題を深めていただきたいと思います。また、事例報告の場合でも、単なる報告にとどまらず、得られた結果から高等教育改革とメディアの利用について発展的に論じていただきたいと思います。

なお、表記の方法など詳細は投稿規定（学会誌の表紙裏、または学会ホームページに掲載）をご覧ください。また、査読や入稿を円滑に進めるために、英文要約と英語のキーワード表記についても、ネイティヴチェックを行うなど、十分にご配慮ください。

字数制限は、図表を含み5000字ないし6000字、原稿の締め切りは平成19年10月末日とします。

投稿に際しては、次の書類等を下記「投稿先住所」まで、必ず簡易書留でご送付ください。

- ・必要事項をすべて記入済みの投稿票
(投稿票は学会ホームページからダウンロードできます)
- ・投稿原稿を4部（原本1部とそのコピーを3部）
- ・原本が収められた記録媒体（フロッピーやCD-ROMなど）
- ・（封筒の表に「特集論文投稿原稿在中」と朱筆する）

■投稿先住所■ 184-8501 小金井市貫井北町4-1-1 東京学芸大学教育学研究室内
日本教育メディア学会事務局内「学会誌編集委員会」宛

なお、学会の機関誌「教育メディア研究」は、常時、投稿原稿を受け付けております。

学会ホームページから、投稿に必要な書類をダウンロードし、原本とコピーを含めて4部、原本の記録されたフロッピーディスクやCD-ROM、投稿票、書留による郵送など、必要事項を十分にご確認の上、ご投稿ください。査読、編集、刊行を定期的及び迅速に進めるため、ご協力をお願いいたします。

皆様のご投稿をお待ちしております。

投稿論文送付先は、上記「投稿先住所」に同じです。

○ 第5期（2006年4月1日～2009年3月31日）役員 ○

（実際の任期は、2006年度定例総会翌日から、2009年度定例総会前日まで）

【会長】 生田孝至

【事務局長】 篠原文陽児

【編集担当理事】 佐々木輝美・和田正人

【坂元賞選考委員】 小平さち子・高桑康雄・市川昌

【監事】 南部昌敏・芝崎順司

【副会長】 篠原文陽児・久保田賢一

【総務・会計担当理事】 佐賀啓男

【研究会担当理事】 村野井均・鈴木克明

◆ 研究委員会組織 ◆

委員長	村野井 均 (茨城大学)	
副委員長	鈴木 克明 (熊本大学)	寺嶋 浩介 (長崎大学)
委員	瀬川 良明 (北海道教育大学)	大河原 清 (岩手大学)
	稲垣 忠 (東北学院大学)	朝倉 徹 (東海大学)
	佐賀 啓男 (江戸川大学)	堀田 博史 (園田学園大学)
	亀井美穂子 (椋山女学院大学)	黒田 卓 (富山大学)
	岡部 昌樹 (金沢星陵大学)	浅井 和行 (京都教育大学)
	木原 俊行 (大阪市立大学)	黒上 晴夫 (関西大学)
	久保田賢一 (関西大学)	田中 博之 (大阪教育大学)
	川本 佳代 (広島市立大学)	三宅正太郎 (福山大学)
	中橋 雄 (福山大学)	板東 宏和 (桜美林大学)

【会員情報】

新入会員

<正会員>	石川登志之 (常葉学園大学)	坂本 徳弥 (椋山女学園大学)
	影山 貴彦 (同志社女子大学)	高比良美詠子 (NIME)
	前田 康裕 (熊本市立飽田東小学校)	清水 和久 (石川県教育センター)
<学生会員>	田島 祥 (お茶の水女子大学大学院)	望月 耕太 (東京学芸大学大学院)
	坂本 美和 (ICU 大学院)	黒澤 将和 (岩手大学大学院)
	盛岡 浩 (関西大学大学院)	
<購読会員>	紀伊國屋書店水戸営業所	

退会者

井上 英治 高野 勝 日比野輝雄 住 政二郎

正会員 306 名 学生会員 38 名 団体会員 7 団体 購読会員 10 団体
会員総数 361 名・団体 (平成 19 年 9 月 1 日現在)

◆ 学会費納入のお願い ◆

本学会会費は、前納制です。

2007年度（2007年4月1日から2008年3月31日）及びこれ以前の会費納入は、年次大会会場でも受け付けておりますので、会費未納の方は、会場内の学会事務局で、納入をお願いいたします。また、納入の確認もできますので、学会事務局に、お立ち寄り下さい。

正会員の年会費は7,000円、学生会員は4,000円です。

なお、会場では新入会員の受付手続きもしておりますので、これを機会に、まだ学会員でない方へぜひ入会をお勧め下さい

◆ 連絡先住所変更等の通知についてのお願い ◆

住所等変更になった場合には、速やかに事務局宛、「はがき」または「封書」で、ご連絡くださいますように、お願いいたします。

学会経費を有効に使用するため、原則として、「受取人転居先不明」等で、事務局宛に送付物等が返送された場合には、その時点で「発送を停止」いたしますので、ご了解くださいますように、お願い申し上げます。

会員の皆様のご理解とご協力を、重ねて、お願い申し上げます。

§

日本教育メディア学会 事務局

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1 東京学芸大学教育学研究室内

電話 042-329-7694

学会ホームページ URL <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jaems/>

E-メール shijaems@u-gakugei.ac.jp

郵便振替口座 00130-4-103021

口座名 日本教育メディア学会